

タイトル	講演4「ウクライナ語正書法史について」
著者	寺田, 吉孝; TERADA, Yoshitaka
引用	北海学園大学人文論集(75): 35-36
発行日	2023-08-31

(NHKの放送を視聴)

この番組では、街頭でインタビューを受ける市民がことごとくロシア語を使用しています。ウクライナ語を話しているのは、ウクライナ正教の聖職者だけです。2019年時点(「ウクライナ語の国家語としての機能保障法」が発行される前後)でのウクライナの言語状況を証言していると思います。

講演4 「ウクライナ語正書法史について」

寺田吉孝

○寺田氏

1798年に発行されたコトリャレフスキイ(ウクライナ語でコトリャレウシキイ)の『エネイダ』は、ウクライナ語のポルタヴァ方言で書かれています。これはウクライナ文学の始まりであると同時に、ウクライナ語を文字化する契機となりました。しかし、ロシア帝国とソ連邦の下で、ポルタヴァではロシア語化が進み、ウクライナ語を耳にすることが少なくなっていました。

ウクライナ語正書法史では、ウクライナ語正書をロシア語正書法に近づけるか否かが常に問題となっていました。1991年以降は、ウクライナ独自の正書法が確立されつつあります。また、ディアスポラが使うウクライナ語も正書法に反映させようという動きもあります。

このディアスポラは、主に19世紀後半以降、ポーランド(当時はオーストリアに併合されていた)が支配する西ウクライナ(特に、ハリチナー)から、アメリカやカナダ等へ移住した人たちです。

ハルィチナー地域は、13世紀のルーシ分裂以降、20世紀中頃まで、ポーランドの影響をずっと受けているので、そのウクライナ語自体もポーランド語の影響が大きくなっています。

ウクライナ語のモノリンガルはハルィチナー居住者が主です。また、正書法改革においても影響力を持っています。ディアスポラのウクライナ語にも配慮するということもよく理解できます。

また、ハルィチナー地域では、ラテン文字化の試みも行われたことがあります。キリル文字をやめて、ラテン文字を使おうという動きですね。ウクライナ語のラテン文字化に関しては、現在も、政権の有力者から時折話題に出されています。

私の報告はこれで終わりにさせていただきます。

○司会 すみません。進行が悪くて時間が随分逼迫しておりますが、幾つか御質問ありましたらお聞きいたしますが、いかがでしょうか。

よろしいですか。

○寺田氏 ハターエヴァ先生の質問に関しては、また、後ほど聞いて、お伝えいたします。すみません。申し訳ないです。

○司会 すみません、重ね重ねおわびいたします。

それでは、定刻になりましたので終了いたしますが、最後、もう一度、何か寺田先生に御質問あれば、一つ、二つ。

いかがでしょうか。よろしいですか。

はい。そうしましたら、定刻になりましたので、これで第10回の大会、終了いたします。

ありがとうございました。

(拍手)